

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子

No.673 = 野間読書推進賞特集 =



受賞者とその推薦者・関係者と、野間省伸会長、来賓、選考委員のみなさん



2023年(令和5年)

野間読書推進賞受賞者表彰 (第53回)

☆受賞者

団体の部

・南種子町おはなし子ども会
(鹿児島県)

個人の部

・原田 紗千子さん
(長野県)

奨励賞

・やくも朗読サークル
(北海道)

・鹿児島 巖さん
(秋田県)

☆賞

賞状および賞牌

☆副賞

金三十万円 (団体の部)

金二十万円 (個人の部)

金五万円 (奨励賞)

野間読書推進賞は、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を、全国から寄せられる推薦のなかから選び、顕彰するもので、毎年、「読書週間」の期間中に贈呈式が行われています。

本年の贈呈式は、11月2日(休)午前11時から、東京都千代田区の出版クラブビルにおいて、受賞団体の代表者および受賞者4名と推薦者など受賞者関係者、読書推進運動関係者の出席のもと開催されました。

式は野間省伸・公益社団法人読書推進運動協議会会長のあいさつで始まり、次に選考委員会を代表し、秋本敏さんが選考経過報告を行い、野間会長より受賞者へ賞が贈呈されました。続いて、文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課 図書館・学校図書館振興室 専門官 毛利るみこさんの祝辞のあと、各受賞者があいさつに立ちました。

贈呈式後には4年ぶりに祝賀会を開催。多くの方にご参加いただきました。また、奨励賞を受賞した鹿児島巖さんが「昭和の紙芝居」を実演するなど、楽しく、なごやかな会となりました。

受賞者業績

《団体の部》

南種子町 おはなし子ども会

住 所 鹿兒島県
熊毛郡南種子町
代表 藤原ひとみ さん

南種子町おはなし子ども会は、1994年に「地域の子どもたちが、より豊かな想像力をもつこと、健やかに成長すること」を願って誕生しました。以来、「絵本や物語の楽しさ、よさを子どもたちに伝え、読書に興味をもつきっかけを作る」「地域の子どもたちが芸術や地域の文化にふれる機会を提供する」「活動を通して、子どもやメンバー同士のつながりを深める」を目標に活動しています。

ティへの入口ともなっています。南種子町おはなし子ども会の主な活動は、以下のとおりです。

- ・おはなしの時間 毎月1回、中央公民館で幼児・小学校低学年を対象としたおはなし会を開催。絵本や紙芝居、各種シアター、手遊など、内容や季節感も大切にしたいプログラムとなるよう工夫しています。
- ・おはなし宅急便 依頼に応じて、町内7小学校を訪問し、読み聞かせを実施。全校生徒が楽しめるよう、プログラムを組んでいます。

- ・親子読書講座 町の生涯学習講座「親子読書講座」の講師を担当。参加家族を対象に、ワークショップや読み聞かせ体験など2時間の講座を年8回開いています。
 - ・図書館劇場運営サポート 年2回、町立図書館が主催する島外劇団の「図書館劇場」の準備・運営をサポート。子どもたちが生の舞台芸術にふれる貴重な機会を支えています。
- おはなし子ども会のおはなし会



会長 東條広光

《推薦者》

鹿兒島県読書推進運動協議会

イベントがあるときは、町の防災無線を使ったり、図書館入り口にポスターを貼ったりするなど、告知にも力を入れています。現在はInstagramなども活用し、さらに町民への読書運動の呼びかけを強めています。

種子島の子どもたち・学校・地域を読書運動でつなぐ存在として、今後ますますの町内における活躍が期待されています。

《個人の部》

原田紗千子 さん

住 所 長野県木曾郡大桑村

原田紗千子さんは岐阜県高山市に生まれ、父親の仕事の関係で幼少期に大桑村へ転居。以降、大桑村を故郷として過ごしました。

1958年より長野県公立学校教員として勤務、早期退職した1992年までの間に、県内8つの小学校・中学校で教鞭をとりました。1972年に赴任した小学校の学校図書館に、たくさんの優れた児童書がそろっていたこと、子どもたちがその本を読み、本の楽しさを子ども自身のことばで語る姿に大きな刺激を受けて、「いつかは子どもたちに本を手渡す活動」をこころえるようになりました。

1978年から、大桑村で地域の保健士と子ども本について学ぶサークル「大桑子ども本の会」を設立。月に1回の例会で優れた児童書を紹介しあい、保育園や学校での子どもたちの読書状況を報告しあってきました。また、毎年、児童文学者や出版人を招き、子ども本に関する講演会も開いてきました。

早期退職後は、愛知教育大学で図書館学を学び、その学びを礎として、2000年に自宅近くの民家を借りて念願の家庭文庫「ぶんこモモ」を開設。約4000冊の蔵書を一般開放しました。その後、2002年に、自宅に「ぶんこモモ」を移設しました。

1996年から2018年までの間、福音館書店の社外講師として長野県中信地区を担当し、各地の読書サークル、子育て支援センター、公民館、図書館、保育園・幼稚園、児童館などで、読み聞かせの講座や子ども本の紹介、読書の大切さを伝える講演を重ねてきました。

原田さんは「行政にも子ども読書を後押ししてほしい」と村に働きかけ、大桑村の子どもへの本のプレゼント事業「ファーストブック（生後10か月）」「セカンドブック（小学校1年生）」「アップテン（小学校4年生）」「サードブック（中学校2年生）」の実現に努めました。これらの図書選書委員も務めています。

現在も「ぶんこモモ」の運営、各施設での読み聞かせや講演を続けており、2013年には中日新聞社の中日教育賞も受賞されました。

長く公共図書館のなかつた木曾地域において、原田さんが地域の読書推進にはたした役割の大きさは計りしれません。

【推薦者】

大桑村図書館
館長 平中和司

《奨励賞》

やくも朗読サークル

住所 北海道二海郡八雲町
代表 太田 幸恵 さん

北海道南西部の八雲町で活動しているやくも朗読サークルは、八雲町立図書館が主催した「朗読ボランティア講習会」の参加者たちが集まり、2006年に発足しました。

毎月、町広報紙『広報やくも』を音声録音し、町立図書館へ寄贈しています。2014年からは北海道新聞朝刊の女性投稿欄「いずみ」や社会のできごとを紹介するコラム「卓上四季」の録音CDを新聞社の許可のもと作成し、現在は、町議会広報紙の音声録音も受託しています。録音媒体の作成のほか、年に数回、図書館を会場に、身近な作品を朗読する「ロビー朗

読会」も開催し、生活情報だけでなく読書を楽しむ場を町民に提供しています。また、朗読技術の維持と向上のため、月3回の勉強会や近隣市町の朗読団体との交流を重ねています。

2012年からは、毎年10月の図書館フェスティバルにて函館市の版画家 佐藤国男さんの協力を得て、宮沢賢治作品を朗読する「幻灯朗読会」を開催しています。

第1部は賢治ゆかりのゲストを招いての講演や座談会、第2部が同サークルによる朗読会で構成されています。特に第2部は、朗読

BGM、スクリーンに投影される佐藤さんの版画が幻想的な世界を創りだし、賢治作品を堪能できると、町内外より人気を博しています。

2019年の図書館新館20周年

記念事業として、幻灯朗読会と一緒に開催した特別公演では、同サークルが架け橋となり、賢治の弟の孫である宮沢和樹さんご一家を招いた「賢治のヴァイオリン演奏会」が実現、賢治所有のヴァイオリンの演奏や詩の朗読、家族から見た賢治像などを、町民に楽しみながら親しんでもらいました。

そのほか2018年と2019年には、町ゆかりの作家、鶴田知

也さんの芥川賞受賞作『コシヤマイン記』の朗読会を、函館市朗読奉仕会と共催するなど、地元の花芸作品の掘り起こしにも一役買っています。

このように、視覚障がい者へのサービスはもとより、図書館を拠点として八雲町民に読書の魅力を伝えるやくも朗読サークルのさまざまな活動は、高く評価されています。

【推薦者】

八雲町教育委員会
教育長 土井寿彦

《奨励賞》

鹿兒島 巖 さん

住所 秋田県鹿角郡小坂町

昭和初期1930年ごろの子ど

もたちが夢中になった「街頭紙芝居」。鉛などを買って自転車荷台に載った舞台上で紙芝居を見ることは、戦後テレビが普及するまで、子どもたちの娯楽として全国各地で親しまれた風景です。小坂町立小坂図書館は2007年の「昭和の日」施行を機に、翌々年の2009年から毎年、「昭和の紙芝居」を企画実施しています。そ

の演じ手として、今日まで協力しているのが、鹿兒島巖さんです。お菓子を食べながらレトロな紙芝居を見て聞くスタイルは、子どもたちには新鮮に映る一方、一緒に参加した高齢者にとっては子ども時代を思い出すきっかけとなり、世代を超えた交流が生まれます。また、紙芝居の画面だけではなく、演じる鹿兒島さんの表情や口調からも物語を理解しようとする

ことにより、子どもたちは「聞く力」「共感する力」「物語を理解する力」「想像する力」を育んでいます。

こうした鹿兒島さんの紙芝居演は、近隣市町村からも出張要請が入るなど、確実に地域に浸透してきました。今後、活動が広がることも期待されています。

その一方、現在、街頭紙芝居の後継者がいないという問題にも直面しています。今回の受賞が、「昭和の紙芝居」という大衆文化の周知と魅力の再発見となり、鹿兒島さんの活動を顕彰するだけでなく、後継者育成につながることを期待しています。

【推薦者】

小坂町立小坂図書館
館長 亀沢 修



★受賞決定までの経過

●2023年(令和5年)5月15日

全国都道府県教育委員会委員長
および教育長、都道府県中央図
書館および読書推進運動協議会
のほか、全国市町村教育委員会

連合会、日本PTA全国協議会、
日本新聞協会、日本放送協会、
日本民間放送連盟などに候補者
推薦を依頼しました。

●2023年(令和5年)7月31日

候補者推薦締切。推薦数は20
団体、3個人。

●2023年(令和5年)8月28日

野間読書推進賞事業委員会に
よる選考準備委員会を開催。各
候補者への評価・その理由を
討議し、11団体3個人を選出。
これについて事務局はさらに
実情調査などの結果をまとめ、
選考委員会に提出しました。

●2023年(令和5年)9月15日

選考委員会を開催。慎重な審
査の結果、1団体1個人の野
間読書推進賞、1団体1個人
の野間読書推進賞奨励賞受賞
を決めました。

☆選考委員

秋本 敏

公益社団法人 日本図書館協会
図書紹介事業委員会 委員長

黒木 義博

公益社団法人 全国学校図書館
協議会 読書活動振興プロジェ
クト担当

野上 暁

児童文学・文化研究家
一般社団法人 日本国際児童図書
評議会 副会長

(五十音順・敬称略)



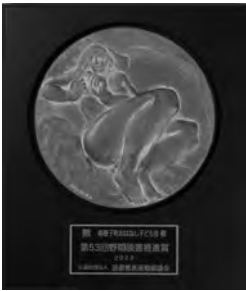
選考経過報告をする秋本敏さん

★野間読書推進賞について

公益社団法人 読書推進運動協
議会は、出版界と読書界との協調
をはかり、広く国民各層に対し、
読書の普及を促進し、もってわが
国の文化と社会の進展に寄与する
ことを目的として、1959年に
創立。以来、「読書週間」をはじ
め多くの事業を行っております。

「野間読書推進賞」は、「読書週間」
の関連事業として1971年に創
設したもので、地域・職域などに
おいて、永年にわたって読書の普
及に力を尽くし、読書推進運動に
貢献された団体・個人を顕彰して
まいりました。

この賞は、故野間省一株式会
社 講談社元社長より、1969
年に読書推進運動協議会の社団
法人設立を機に基本財産として
金1千万円、1979年には講
談社創業70周年を記念して金



野間読書推進賞賞牌



表彰状にはそれぞれの受賞事由が記される

1千万円、さらに1987年には
講談社創業80周年を記念して金
2千万円の寄付を受け、この基金
を中心に贈呈するものです。ま
た、2022年にも講談社より金
2千万円の寄付を受けています。

第1回から第14回までを「読書
推進賞」と称し、1985年(第15
回)から、故人の遺徳を偲んで「野
間読書推進賞」と改称しました。



挨拶と祝辞



贈呈式 主催者あいさつ

公団社団法人 読書推進運動協議会

会長 野間 省伸

本日「野間読書推進賞」を受賞されるみなさま、ほんとうにおめでとうございます。

「選考にあたられた秋本敏さま、黒木義博さま、野上暁さまのお三方、ほんとうにありがとうございます。

今年は4年ぶりに贈呈式と祝賀会を平常通りに開催できる運びとなりました。お忙しいなか、ご列席くださいましたみなさまに厚くお礼申しあげます。

「野間読書推進賞」は、長く読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献してこられたみなさまに対して贈られます。1971年に始まり、今回、第53回を迎えました。本日は本賞1団体・1個人、

奨励賞1団体・1個人を顕彰いたします。本日受賞されるみなさまを含めて、受賞者はトータルで240の団体・個人の方々となりました。

また現在、第77回読書週間が開催中です。今回の標語は「私のページでしおりは進む」。ポスターは、しおりに乗った少女が、めくられていくページの上を飛行する姿を描いています。読書がさまざまな体験を可能にするイメージを、さわやかな色調で表現していると思います。

読書推進運動はかつての活発な活動を取り戻しました。春の「こどもの読書週間」も、行事主催者数が以前のレベルに回復しております。

読書推進活動の現場で活躍して



開式の挨拶をする野間会長

いらつしやるみなさまのご報告や、ご感想をおうかがいしますと、一人ひとりの方と対面で笑顔を交わし、手を取りあつて、本に親しむ時間を持つことの大切さ、そのすばらしさをあらためて感じます。

みなさまの読書推進運動が、よりよき社会の実現の一助となることを強く祈念しまして、私のあいさつといたします。



祝辞

文部科学省

総合教育政策局 地域学習推進課
図書館・学校図書館振興室 専門官

毛利るみこ

本日受賞されたみなさま、まことにめでとございます。

受賞されたみなさまは、各地域において長年読書活動の推進に精力的に取り組まれ、地域における読書活動の普及に大きく貢献されてこられました。本日の受賞について、心からお祝いを申しあげるとともに、みなさまの読書普及へ

の熱意ある取組に対し、深く敬意を表します。

読書活動は、子どもが、ことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです。子どもたちからの読書習慣の形成は、「読む喜び」を育み、生涯にわたる学びを助け、個人および社会全体のウェルビーイングの実現に資すると考えられ、このような効果が期待できる読書活動を社会全体で推進していくことは、きわめて重要であると思っています。

政府は、本年3月に、令和5年から9年のおおむね5年間を対象期間とし、子どもの読書活動推進に関する基本方針と具体的方策を明らかにする、第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を閣議決定いたしました。

本計画は、「不読率の低減」「多様な子どもたちの読書機会の確保」「デジタル社会に対応した読書環境の整備」「子どもたちの視点に立つた読書活動の推進」の4つの基本的方針を掲げています。文部科学省としても、本計画に基づき、みなさまとともに、未来の社会を担う子どもたちの読書活動の推進に努め



祝辞を述べる文部科学省 毛利さん

てまいりたいと考えております。読書推進運動に取り組まれているみなさまにおかれては、子どもたちの豊かな読書環境の実現のため、これまでの御知見やご経験、そして専門性を生かしていただき、引き続き読書活動の推進に御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年度第53回を迎えられました、この「野間読書推進賞」をはじめとする読書活動の推進に、長年にわたり取り組まれている公益社団法人 読書推進運動協議会および関係者のみなさまに心から敬意を表するとともに、本日もご参加のみなさまのますますのご活躍とご健勝を祈念申しあげ、お祝いのことばといたします。

野間読書推進賞を受けて



健やかな成長と豊かな想像力を子どもたちに

南種子町おはなし子ども会

代表 藤原ひとみ(鹿児島県)

このたびは栄誉ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。贈呈式と祝賀会では、受賞経験のある読書ボランティアの方々と交流し、迫力ある昭和の紙芝居実演にも感銘を受けました。あらためておはなしを届ける活動に魅力を感じ、すてきな時間を過ごすことができました。ありがとうございます。

私たち「南種子町おはなし子ども会」は、鹿児島県種子島の南種子町で1994年から約30年間活動を続けているおはなしボランティアグループです。種子島宇宙

センターを有する南種子町は、宇宙関連企業や、町の山村留学制度である「宇宙留学」、サーフィンなどを目的に県外からの移住者も多い町です。現在メンバーは12名、町出身者と新しく島へ来たメンバーも一緒に、長年の活動を大切にしながら、新しいメンバーからよい刺激を受けて楽しく活動しています。

おもな活動は次の4つです。

- ①おはなしの時間 毎月1回、公民館で幼児から小学校低学年の子どもを対象に行っているおはなし会。
 - ②おはなし宅配便 町内の小学校の依頼に応じ、学校で全校生徒対象に行うおはなし会。
 - ③親子読書講座 親子で読書を楽しめる内容を企画し、町の生涯学習講座のひとつとして講師を担当する講座。
 - ④町立図書館主催の劇団公演の運営サポート。
- 活動にあたっては、子どもたちが読書に興味を持つきっかけを作

ることはもちろん、子どもたちやメンバー同士、地域とのつながりを深めることも大事な目標にしています。今回の受賞は、会の活動が長年継続していること、また多岐に渡る活動を地域とのつながりを作りながら行っていることをこ

評価いただいたと聞きました。そのことばに、メンバー一同たいへんうれしく思っているとともに、長い間会の活動を続けてきてくださった先輩たちにも感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、子どもたちが健やかに成長し豊かな想像

力を持つことを願いながらおはなしを届け、活動を通して人と人がつながることができるよう、励んでいきたいと思えます。



「上」小学校が会場の「おはなし宅配便」。今日のプログラムは、「ピアノ演奏つきのパネルシアター！」
「五」「おはなしの時間」では、読み聞かせに加え、身体遊びなどで子どもたちを引きつけます。
「五」メンバーは幅広い年齢層で構成されています。



⇒南種子町おはなし子ども会を紹介する藤原さん



⇒受賞者あいさつでは子どもたちも大活躍！

野間読書推進賞を受けて



人と本をつなげながら

原田紗千子 (長野県)

このたびは荣誉ある賞をいただき、まことにありがとうございます。

私に子どもの本の豊かさを教えてくれたのは、はじめて担任した小学校3年生でした。本の楽しさをそれぞれに語ってくる姿にふれて、いつか子どもの本と関わる仕事をしてみたいと願うようになりました。

1978年、木曽の学校に戻ったのを機に、地域の方と「大桑子どもの本の会」をつくり、本の話しあいや「おはなし会」を開いてきました。『地域に子どもの本の文化の大切さ』と年一回の講演

会も企画し、16年続きました。大川悦生さん、小宮山量平さん、わかやまけんさん……と、初めのころの講師の方々も懐かし思い出されます。学校での朝読書や子どもたちへのブックプレゼントの選書も依頼され続けています。

2000年、念願の家庭文庫を開設することができました。塾や日課に追われる子どもたちに、自分らしい時間をお願い、エンデの『モモ』から名付けました。

郡内には、当時、図書館がなく、他町村からの利用者もおおぜいでしたし、園での「おはなし会」、学校でのブックトーク、父母への講座などで紹介した本を文庫に借りて来てくれるといううれしい循環もありました。

文庫には、いろいろな子どもの表情が見られます。

木曽福島(現・木曽町)からはじめて訪れた5人家族。父さんが「あつた!」と手にしたのは『ウルスリのすず』。「この本、1年生のときに父親に読んでもらった、忘れない一冊」と読み始めると、父の周りに寄り集まる3人の子ど

もと母さん。この子たちは10年以上通ってくれ、今、長女は大学で児童文学を学んでいます。

「これ、100回読んでもらってもいい」と、ちびっこカムのぼうげん』を返す年長の園児。

夕方6時近く、ピンポンとチャイムの音。出てみると3歳になるSちゃんと母さん。「どうしても『しろくまちゃんのほっとけーき』を読んで、きかないんです」と。

『罪と罰』を読んで、「外国文学には聖書が必読ですか」と聞いてくる中学生。

「就職の荷物にここで親しんだ本



を入れていきました」と話す母さん。

今、施設で働きながら、利用者の方々に本を読んでいる彼女がいます。中学で悩み続け「モモ」にに来ていた彼女です。本『モモ』と出会い、自分の時間の大切さに気づき、遅い年から高校に通い、司書補を取得しました。

数かぎりない、こうした人と本とのつながりで文庫を続けることができた実感しています。田舎の小さな文庫から「本のたのしき、よき」を見つけられる子が生まれることを願いながら、いただいた賞を励みにがんばっています。



「上」小学校でのブックトーク。この学校は統合前に「せひ」と原田さんをお招きしたそうです。
「石」4000冊の本と、ここで育ったみんなの思いが詰まった「ぶんこモモ」



⇒子どもの本の豊かさを、本を通してのひととの出会いを語る原田さん



⇒お連れあいの正さんとご夫婦で参加されました

野間読書推進賞を受けて



すばらしいみなさまと
ともに

やくも朗読サークル

太田幸恵(北海道)

このたびは荣誉ある野間読書推進賞奨励賞を賜りましたこと、メンバー一同、心より感謝申しあげます。ありがとうございます。

私たちは、2006年に八雲町立図書館主催の「朗読ボランティア」講習会の参加者が中心となり、朗読を学び、視覚に障がいのある方や、高齢者などに広報などの情報や読書の楽しさを伝え、朗読サーブスを提供することを目的としたサークルです。月3回の例会を開き、そのときどきのテーマにあわせ勉強会を続けております。

また、年に1回、函館在住の版画家・佐藤国男さんの協力のもと、

と、宮沢賢治作品の幻灯朗読会をしております。今年で12回、12年間同じ作家さんの朗読をしております。『貝の火』『林の底』『まなづるとダアリア』など、このごろはあまり知られていない作品を取りあげ、披露しております。

2018年には函館で、函館朗読奉仕会のみなさまと町ゆかりの作家・鶴田知也の芥川賞受賞作品『コヤマイン記』を合同で朗読いたしました。その後、町民から八雲町での開催を望む声があり、翌2019年3月に奉仕会のみなさまと、八雲町立図書館で朗読会を開催いたしました。

また、賢治さん以外の作品も聞きたいとのリクエストで、2016年から年3回、図書館でのロビー朗読会を開催しています。北海道新聞女性投稿欄「いずみ」、金子みすゞさんの詩、時代小説、八雲町出身の堂七一徳さんの画集『えぞやまさくら』の森』からエッセイなど、メンバーが読みたい本を中心に約1時間、それぞれ楽しんでいただいています。

読書運動は、けっして派手では

ありません。コツコツと本を読み、夢と想像をふくらませ、また新しい作家さんに出会える喜びを期待し、1冊の本を手に取ります。幼児から小中高・大人からお年よりと自由に選択でき、読書のすばらしさを今回の受賞であらためて感じました。野間読書推進賞は、数少ない読書会の祭典ですね。

日本を代表する選考委員のみなさま、読書推進運動協議会の理事のみなさま、長身でハンサムな野間省伸会長、みなさまと同じ空間でお話してきましたことは、これ

からの活動になによりも励みになりました。そして、審査員の方から「活動年数も少なく、人数も少ないやくも朗読サークルですが、これからも続けていつてくださーいとの願いからの奨励賞です」のおこは、謹んでお受けいたします。これからは、みんなで一緒に、楽しい朗読会を企画し、がんばっていきたいと思います。みなさまに感謝をこめて！



〔一〕八雲町図書館での「ロビー朗読会」。このときは筆子をハックに時代小説を着物姿で朗読。図書館の七夕飾りが雰囲気を盛りあげました
〔二〕月3回の勉強会で研鑽を積みま



⇒野間会長から賞状を受ける代表の太田さん



⇒会場には佐藤国男さんのポストカードを持参いただきました

野間読書推進賞を受けて



鹿兒島巖 (秋田県)

生の声で、感じあえる場を大切に

このたびは思いもよらぬ受賞となり、「青天の霹靂」とは……と感じ入った次第です。

受賞の機会をいただき、あらためて記憶をたどっております。

10数年前のこと、町の図書館で、知りあいの司書との話のなかで、「新年度から祝祭日を閉館することになったけど、その最初が今年から『昭和の日』として祝日になる4月29日で、せっかくの機会なので、なにか新しい企画がないかしら」と持ちかけられ、昭和の記憶、子どもころの記憶のなかからたどりに着いたのが「自転車紙芝居」でした。

戦後の復興のなかで、空き地や路地裏で、男の子はメンコやビー玉、ペーゴマ回し、女の子は鞠つき、お手玉、ゴム跳びなどで遊ぶ声や響くようになり、そんな子どもたちを目当てに自転車の荷台に紙芝居を載せて館を売りながら街々を回っていた風情でした。

記憶の細い糸から、あーだったこーだったと思っておこなながら、道具の手作りから始まりました。

それから毎年、昭和の日に図書館の庭で自転車紙芝居を行っていたなかで、町の保育園や学校、近隣の町や市のイベントなどからも声がかかるようになって今日にいたったというだけのこと、なかにか特別の思い入れとかがあって続けてきたということではないのに、というのが、正直なところですね。

そんな思いのなかで、贈呈式に出席することにいささか戸惑いがあったこともまた……ということですね。

この思いをかみしめながら、町の図書館の推薦文を読み返して、これだ！この推薦文が受賞したんだ！と思いいたりしました。し

かし、その思いの一方、これまで続けてきたことについて、あらためて思いおこす機会を与えていただいたことに感謝しています。

今の社会のなかで、そしてこれからますます活字離れが進むなかで、絵本の読み聞かせや紙芝居など、子どもたちと目を合わせて話すことの大切さを再認識していきたいものです。

これからも体力が続くかぎりは続けていきたいと思うと同時に、跡を引き継いでくれる仲間を増やしていければと思っております。

それから毎年、昭和の日に図書館の庭で自転車紙芝居を行っていたなかで、町の保育園や学校、近隣の町や市のイベントなどからも声がかかるようになって今日にいたったというだけのこと、なかにか特別の思い入れとかがあって続けてきたということではないのに、というのが、正直なところですね。

そんな思いのなかで、贈呈式に出席することにいささか戸惑いがあったこともまた……ということですね。

この思いをかみしめながら、町の図書館の推薦文を読み返して、これだ！この推薦文が受賞したんだ！と思いいたりしました。し

かし、その思いの一方、これまで続けてきたことについて、あらためて思いおこす機会を与えていただいたことに感謝しています。

今の社会のなかで、そしてこれからますます活字離れが進むなかで、絵本の読み聞かせや紙芝居など、子どもたちと目を合わせて話すことの大切さを再認識していきたいものです。

これからも体力が続くかぎりは続けていきたいと思うと同時に、跡を引き継いでくれる仲間を増やしていければと思っております。

それから毎年、昭和の日に図書館の庭で自転車紙芝居を行っていたなかで、町の保育園や学校、近隣の町や市のイベントなどからも声がかかるようになって今日にいたったというだけのこと、なかにか特別の思い入れとかがあって続けてきたということではないのに、というのが、正直なところですね。

そんな思いのなかで、贈呈式に出席することにいささか戸惑いがあったこともまた……ということですね。

この思いをかみしめながら、町の図書館の推薦文を読み返して、これだ！この推薦文が受賞したんだ！と思いいたりしました。し

かし、その思いの一方、これまで続けてきたことについて、あらためて思いおこす機会を与えていただいたことに感謝しています。

今の社会のなかで、そしてこれからますます活字離れが進むなかで、絵本の読み聞かせや紙芝居など、子どもたちと目を合わせて話すことの大切さを再認識していきたいものです。

これからも体力が続くかぎりは続けていきたいと思うと同時に、跡を引き継いでくれる仲間を増やしていければと思っております。

それから毎年、昭和の日に図書館の庭で自転車紙芝居を行っていたなかで、町の保育園や学校、近隣の町や市のイベントなどからも声がかかるようになって今日にいたったというだけのこと、なかにか特別の思い入れとかがあって続けてきたということではないのに、というのが、正直なところですね。

そんな思いのなかで、贈呈式に出席することにいささか戸惑いがあったこともまた……ということですね。

この思いをかみしめながら、町の図書館の推薦文を読み返して、これだ！この推薦文が受賞したんだ！と思いいたりしました。し

かし、その思いの一方、これまで続けてきたことについて、あらためて思いおこす機会を与えていただいたことに感謝しています。

今の社会のなかで、そしてこれからますます活字離れが進むなかで、絵本の読み聞かせや紙芝居など、子どもたちと目を合わせて話すことの大切さを再認識していきたいものです。

これからも体力が続くかぎりは続けていきたいと思うと同時に、跡を引き継いでくれる仲間を増やしていければと思っております。

それから毎年、昭和の日に図書館の庭で自転車紙芝居を行っていたなかで、町の保育園や学校、近隣の町や市のイベントなどからも声がかかるようになって今日にいたったというだけのこと、なかにか特別の思い入れとかがあって続けてきたということではないのに、というのが、正直なところですね。

そんな思いのなかで、贈呈式に出席することにいささか戸惑いがあったこともまた……ということですね。

この思いをかみしめながら、町の図書館の推薦文を読み返して、これだ！この推薦文が受賞したんだ！と思いいたりしました。し

かし、その思いの一方、これまで続けてきたことについて、あらためて思いおこす機会を与えていただいたことに感謝しています。



選考委員からの「ぜひ！」の声に応えて祝賀会で「昭和の紙芝居」を上演する鹿兒島巖さん。館を控室に忘れるハプニングがあっても、あわてず騒がず、代わりに手品を披露、「黄金ハット」の真実が、会場に響きました



⇒小坂町教育委員会 田村さんと一緒に記念撮影



⇒紙芝居をはじめたきっかけや楽しさを語る鹿兒島巖さん





南種子町おはなし子ども会

【いちばん上】子どもたちが絵本に集中する、「おはなしの時間」で読み聞かせ

【上】祝賀会で代表の藤原さん親子、書記の北村さん親子と野間会長

【右】「親子読書講座」で紙芝居づくり



おかわり!

受賞者活動紹介 & 贈呈式・祝賀会

今年も紹介したい写真がいっぱい！
笑顔いっぱいのおかわりページを、
お楽しみください



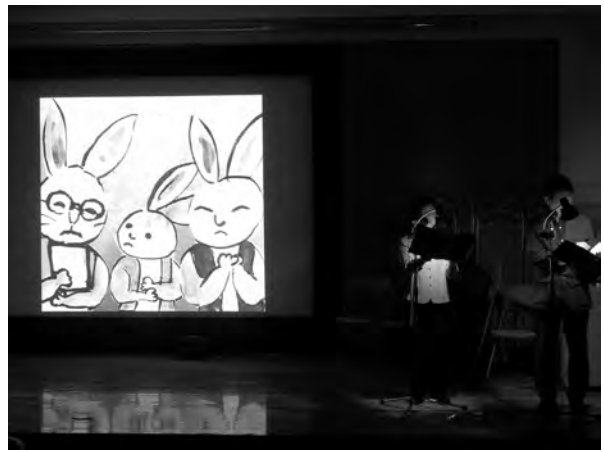
原田紗千子さん

【左上】自然豊かな木曽・大桑村で人と本をつなぎ続ける原田さん

【上】子どもたちの反応がうれしい、保育園でのおはなし会

【左】祝賀会で鹿児島県立図書館の東條館長と語る原田さん





やくも朗読サークル

八雲町は木彫りの熊発祥地！2024年に発祥100周年を迎えます

【上】今年10月14日に開かれた幻灯朗読会の様子

【右】幻灯朗読会の入口には、佐藤国男さんによる朗読作品のイラストと、佐藤さん手作りの看板・紙芝居舞台が飾られます



鹿兒島巖さん

祝賀会での「昭和の紙芝居」

【右上】贈呈式でのスーツ姿から一転、デニムの衣装でベルを鳴らしながらの登場！

【上】もちろん、拍子木もご持参。引き出しときの紙芝居台は鹿兒島さんのお手製です

【右】身振り、手振りも入れ『黄金バット』を迫力いっぱい演じてくれました！



野間読書推進賞 これまでの受賞者からの近況報告

本年の贈呈式にあわせていただいた、これまでの野間読書推進賞受賞者からの近況報告をご紹介します(文章を一部 割愛しています)。

第7回 1977年

団体 加須市民読書会(鈴木貴一さん) 埼玉県

* 加須市民読書会、おかげさまで開会より60年、いままも続けています(メンバーは替わりましたが)。

第20回 1990年

奨励賞 郡山・子どもの本をひろめる会(吉井美香さん) 福島県

* 「郡山・子どもの本をひろめる会」は、今年で創設50周年を迎えました。原点を忘れず、子どもたちにより本を手渡す活動を継続して行つていきたいと思ひます。

第21回 1991年

団体 佐賀真親と子の読書会協議会(光岡澄子さん) 佐賀県

* 受賞者のみなさま、おめでとうございます。今年度はやっと県大会ができて、会員は喜んでいきます。これから50周年に向かつてがんばっています。

個人 小林静子さん(栃木子どもの本連絡会) 栃木県

* 受賞者のみなさま、本日はまことにおめでとうございます。コロナも完全ではないですが落ち着

き、子どもさんたちにも対面での読み聞かせができるようになりま

した。子どもたちは待つています。みなさまとの共有の時間を!

第24回 1994年

個人 清水達也さん(「遊本館」継承者 清水喜久栄さん) 静岡県

* 団体の部、個人の部、奨励賞の方々、長年の運動が実り、心からお喜び申し上げます。

第25回 1995年

奨励賞 板野町読書会(橋本雅公さん) 徳島県

* 受賞されたみなさまに、心よりお慶び申し上げます。

第27回 1997年

個人 坂本京子さん 徳島県

* 私、96歳になりました。元気で毎日楽しくやつています。みなさま、お元気で……。

第28回 1998年

団体 一般社団法人 八戸市読書団体連合会(種市良意さん) 青森県

* 受賞のみなさま、おめでとうございませう。コロナ騒ぎのため、多人数の集

会、総会が思うように開催できずに困つております。老人ホームを中心に引きこもり読書を推進しております。

第30回 2000年

特別賞 大塚笑子さん(朝の読書推進協議会)

* 野間読書推進賞受賞者のみなさま、おめでとうございませう。みなさまがたのますますのご活動、ご活躍を心よりご祈念いたします。

私も去る2000年、野間読書推進賞特別賞を受賞いたしました。贈呈式は夢のようで、身に余る光栄と感激に胸が高鳴り、身体は震えておりました。あの日の感動は、私の一生の宝物です。その受賞が励みと感謝の思いとなつて、「朝の読書」を全国に広める私の力になつております。

第31回 2001年

団体 大分子子どもの本研究会(甲斐栄さん) 大分県

* おはなし会などの読書推進活動を脈々となさつておられるみなさまのことが知り、子どもたちが本とよい出会いをしていることと想

第34回 2004年

団体 ひこね児童図書研究グループ(種橋由子さん) 滋賀県

* 当グループも高齢化して会員数

祝賀会でスピーチする国立国会図書館国際子ども図書館 三浦館長



も少なくなりりましたが、なんとかがんばつて続けています。本を届けるということも時代とともに変化していますが、変わらないものがひとつくらいあつてもいいかなあと思ひ、アナログでがんばつていきます。

第36回 2006年

個人 前田敏子さん(一般社団法人 八戸市読書団体連合会) 青森県

* 受賞者のみなさま、受賞おめでとうございませう。コロナで活動ができない日々なのなかでの受賞は、みなさんにとつて、すばらしい励みになるものと思ひます。ますますのご発展をお祈りいたします。

第32回 2002年

個人 吉田まさ子さん(かべや文庫) 福島県

* 狂気のような夏で、本を手にとることも少なく過ぎましたが、やつと秋らしくなつてきて、私の文庫もまた、ポツポツ人が集まるようになりました。

第32回 2002年

個人 吉田まさ子さん(かべや文庫) 福島県

* 受賞者のみなさま、受賞おめでとうございませう。コロナで活動ができない日々なのなかでの受賞は、みなさんにとつて、すばらしい励みになるものと思ひます。ますますのご発展をお祈りいたします。

第34回 2004年

団体 ひこね児童図書研究グループ(種橋由子さん) 滋賀県

* 当グループも高齢化して会員数

私の所属しております会も、ようやく平常な活動に着手できるようになりました。書店員が選ぶノンフィクション大賞の候補者の斉藤光政氏を囲む読書会が12月12

日、県の委託事業である読みきかせ講習会が11月21日、新年研修会が2月にあります。また、八戸ブックセンターとの協働事業として、市の方からご援助をいただき、本のまち八戸にふさわしい事業を来年度にむけて計画中です。

奨励賞 認定NPO法人 高知子ども図書館(岡本富美さん) 高知県

*第53回野間読書推進賞を受賞されたみなさま、おめでとうございませす。読書の楽しさを伝える活動や、地域に根ざした交流の場づくりなど、本と人々をつなぐ活動の功績に心から敬意を表します。当



原田さんと南種子町の北村さん。初対面とは思えない笑顔!

館も開館から25年をまもなく迎えます。さらに尽力し、前進していきたいと思ひます。

第37回 2007年

団体 「本の学校」生涯読書をする会(足平茂美さん) 鳥取県

*対面での公開講演会の開催、会報『Book & Life』の発行など、読書のたのしき大切さを伝える活動を、続けています。

第38回 2008年

団体 十勝子どもの本連絡会(沼田陽子さん) 北海道

*受賞おめでとうございませす。長年にわたり活動を続けてきたことの成果だと思ひます。今後ますますなるご活躍を祈念しております。私たちの会もゆつくりのんびり歩んでいます。

団体 図書館朗読ボランティアの風(笠井亨子さん) 山梨県

*まだまだ活動が思うようにできません。千の風はボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰を受賞することになりました。推進賞を受賞されるみなさま方、ますますがんばってください。

第39回 2009年

奨励賞 男声読み聞かせ隊MITSUS(小山中弘さん) 北海道

*栄えあるご受賞、まことにおめでとうございませす。ますますのご活躍をご祈念いたします。

活躍をご祈念いたします。

第40回 2010年

団体 青森市読書団体連絡会(西村恵美子さん(第45回個人受賞)) 青森県

*読書推進というユートピアに向かって、険しい道を歩む日々、ときとして岸淵に立つて絶景を讃えることで先へ進める意欲となりませす。特色ある活動景観の受賞に敬意を表します。

第41回 2011年

団体 みきおはなし会*絵本の森(西尾美智子さん) 兵庫県

*受賞おめでとうございませす。みなさんの活動にふれ、私たちも残暑厳しい9月2日より、図書館で4回の絵本の森の基礎講座を開催しました。10月8日に無事終了。最終日はグループにわかれて実践発表、貴重な時間を共有できました。

個人 小川範子さん(宇都宮子ども本連絡会) 栃木県

*受賞のみなさま、おめでとうございませす。先日、宇都宮子どもの本連絡会主催の読み聞かせマラソンに参加してきて、子どもたちと一緒に本を楽しむ時間が持てることの幸せを痛感しております。みなさまこれからも一緒にがんばりませう。

第42回 2012年

団体 関西の会しおん(波多野いと子さん) 岐阜県

*みなさま、いつも読書推進のためにご尽力いただき、ありがとうございます。

団体 ひろしまストーリーテリングの会(村本佐知子さん) 広島県

*受賞されたみなさま、おめでとうございませす。本と人に出会う地道な活動を長く続けていらつしやるグループの方々、これからもみなさまと活躍されることを祈つていませす。

奨励賞 清水季子さん(大平町点字の会) 栃木県

*受賞者のみなさま、おめでとうございませす。ますますのご活躍をお祈りませす。

不穏な国際情勢の中だからこそ、平和の大切さを伝えられる本の役割が大きいと感じませす。

第43回 2013年

団体 絵本読み聞かせの会 おおすびころりん(白内恵美子さん) 宮城県

*週2回、地域の小学校の朝読書の時間に絵本を読んでいます。子どもたちの笑顔が楽しみで通っています。月1回、公民館での読み聞かせと工作も続けていませす。自



左から大桑村図書館の新井さん・平中館長、かさいまりさん

分の好きな絵本を紹介する「絵本の学習会」も楽しみでませす。団体 図書館ボランティアサークルかやのみ会(東谷恵子さん) 山形県

*受賞者のみなさま、おめでとうございませす。みなさま方の日々の努力に感謝いたします。

私たちの会は、今年に入り、ようやく学校・介護施設などでの活動が再開され、喜んでいるところです。子どもからお年寄りの方々の笑顔を増やしたい一心でやってまいりました。これからもメンバー一同、研鑽に励んでまいりませす。

団体 しらはま子どもの本の会
(坂本美枝子さん) 和歌山県

*受賞されたみなさま、おめでとうございます。日頃の活動のたまもの、心からお喜び申しあげます。私どもも細々ですが、続けております。子どもの本が大好きな集まりです。

第44回 2014年

個人 成田和子さん 宮城県

*第53回 野間読書推進賞を受賞されたみなさま、このたびはまことにめでとうございます。

今、世界は戦争への道に舵を切つてしまい、それゆえに、戦争を経験している私は「平和」の尊さをととても深く感じます。子どもたちにこの現状をどのように伝えたらよいのでしょうか。私が幼いころ、父がトルストイの『戦争と平和』の本を教えてくださいました。今あらためて読み返しております。大人たちは本を読まなければなりません。そして子どもたちに親のことで語つていかなければなりません。みなさまがこのことを実践されておられ、その力は大きなものとなるでしょう。ますますのご発展を心よりお祈り申しあげます。

*受賞者のみなさま、おめでとうございます。心よりお祝い申しあげます。心よりお祝い申しあげます。



未就学の子どもたちがたくさん

の本に出会うきっかけとなることを願つて、群馬県教育委員会は

ブックリスト「どのほんよもうかな」0歳から5歳親子で楽しむ94冊」を作成しました。ブックリストの本は県民のみなさんから推薦された本の中から選定し、家庭での読み聞かせのヒントも掲載されているという特徴があります。作成にあたり、私も協力させていただきました。

ただきました。QRコードからどなたもご覧になれますので、たくさんの方に活用していただけたらと思つております。

奨励賞 鈴木富夫さん(けやきぶんこ) 千葉県

*越後・村上にあるけやきぶんに毎月通つていきます。本の話をするために、行つたり来たりをまた

やつていきます。元気に。みなさまもどうぞ!!

第45回 2015年

団体 特定非営利活動法人 岩手県読書の会(横澤忠さん) 岩手県

*野間読書推進賞受賞者のみなさま、受賞おめでとうございます。毎年、贈呈式のご案内をいただきますと、晴れがましい気持ちで贈呈式に臨んだあのを思い出します。これからも読書推進のためご活躍ください。

コロナ感染症は5類に移行されましたが、マスクをしながら例会などを開催しています。所属している岩手県立視聴覚障がい者情報センターが「点訳図書製作要領」を改訂しましたので、その逐条確認やテキスト「点訳のてびき」への書き込みの統一を図ることを内容としているためか、例会参加者



作本のR
が「どのQ
さんたど
さしたな
ざ力スト
子力スト
敬協スト
成にリム
クンリム
紹介紹
寺成ク
成にリ
クンリ
紹介紹

第46回 2016年

団体 グループわらべ(佐々木文子さん) 岩手県

*岩手の遠野は、もう寒くてストーブを囲んでいます。グループわらべも健在で、今年は訪問活動にも出かけています。会員数は変わりなく、楽しく活動できています。

個人 平田恵美子さん(一般社団法人 沖繩県子ども本研究会) 沖繩県

*受賞のみなさま、おめでとうございます。神保町の出版クラブへ足を運びたいと思つていました。家庭の都合で参加できず、残念です。

リモートで孫の通っている小学

が増えています。「読みやすい点訳図書」製作のため、点訳技術向上の努力を続けています。

個人 野々上律子さん(大阪府子ども文庫連絡会) 大阪府

*ご受賞のみなさま、おめでとうございます。

ウクライナやパレスチナガザ地区の多くの子どもたちの困難さ、きびしい現実を思うと胸が痛みます。世界中の子どもたちに平和を願つて、絵本やおはなしを届けたい気持ちです。平和こそ、最大の幸せです!

第47回 2017年

団体 彦根おはなしを語る会(辻まゆみさん) 滋賀県

*コロナ禍の制限をおおかつた解かれての活動ができるようになり、図書館・保育園・学校・公共施設と、以前のようにおはなし会ができるようになりました。語り手はまだマスク着用でのおはなし会ですが、子どもたちはマスクを着用



左から、八雲町教育委員会教育長土井さん、やくも朗読サークル土屋さん・太田さん、南種子町おはなし子ども会藤原さん

校で自作の『うずらのかあさん』の読み聞かせをしました。まんざら祝い(沖繩の赤ちゃんの誕生祝い)の片足ケンケン(肩相撲)で盛りあげられました。

個人 彦根おはなしを語る会(辻まゆみさん) 滋賀県

*コロナ禍の制限をおおかつた解かれての活動ができるようになり、図書館・保育園・学校・公共施設と、以前のようにおはなし会ができるようになりました。語り手はまだマスク着用でのおはなし会ですが、子どもたちはマスクを着用

していないので、何年かぶりの笑顔を見て語れるのは、なによりの喜びです。

個人 川端英子さん(のぞみ文庫宮城県)

*今年度の受賞者のみなさま、おめでとうございます。私はのぞみ文庫53年目をなんとかやっておりますが、日々足腰が弱っております。上京できませんが、心からお祝い申し上げます。

個人 浅川玲子さん(特定非営利活動法人山梨子ども図書館) 山梨県

*コロナ感染が収まり、2023年4月ごろからは子どもたちへの読み聞かせが学校・図書館で行われるようになりました。お母さんたちの生の声の読み聞かせは、大人になっても子どもの耳に残る懐かしい声です。94歳になった私は、山梨県立図書館に招かれ、県内の司書たちにお客さまの対応は心をこめて、と話しました。

奨励賞 土庄町立中央図書館友の会(諸石正宣さん) 香川県

*少しずつ、活動を再開し始めました。

第48回 2018年

団体 ねりま地域文庫読書サークル連絡会(木村典子さん) 東京都 *今年度はコロナの影響から抜け出

せて、ねりま文庫連の会員団体が講演会などを開くことが増え、楽しい活動報告を聞けております。みなさまのご活躍をお祈り申し上げております。私どもも受賞を励みとして活動が続いております。

団体 たけのこ文庫(草野三保子さん) 福岡県

*受賞されたみなさま、おめでとうございます。みなさまとともに、子どもたちのいきいきとする笑顔を感じます。

第49回 2019年

団体 諫早コスモス音声訳の会(中路美知子さん) 長崎県 *受賞者のみなさま、おめでとうございます。今年度は通常に戻り、活気に満ちていることでしょうか。

私たちも4年ぶりに、リスナーさんと顔をあわせて交流会を行いました。音声訳者養成講座には6名が参加し、仲間が増えることを喜んでいきます。

個人 村上招子さん(家庭文庫ぼと) 広島県

*野間読書推進賞受賞者のみなさま、まことにおめでとうござい

ます。

コロナウイルス感染が5類に移行し、対面する機会が増え、絵本を届けることができる喜びを強く感じています。引き続き、子ども

とお母さんとともに、絵本を楽しみ、楽しいことをやっていたいと思います。

個人 今井登美子さん(読み聞かせグループ「ゆめくらぶ」) 大分県

*受賞のみなさま、おめでとうござい

ます。

秋らしくなつてまいりました。コロナが5類になり、地域では運動会の歓声や、お宮のお神楽の太鼓や笛の音が響き、日常が少しずつ戻ってきたことに喜びを隠せません。私事、「紙芝居文化の会

から松井エイコさんほか2名の講師をお招きして、3回連続講座ができたことも喜びのひとつです。

活動が広がっていく種まきができました。これからもがんばります。

第50回 2020年

団体 おはなしの木(土田さゆきさん) 宮崎県

*受賞のみなさま、おめでとうござい

ます。本とおして、たくさんの方がいろいろな活動で社会貢献をされていることが素晴らしいです。

特別賞 三島読書グループ連絡協議会(森川啓子さん) 愛媛県

*野間読書推進賞、受賞、おめでとうございます。地域に根ざしたみなさま方のご活動が、今後ますます発展されますようお祈り申し上げます。当方の市文化祭における「民話を語る」も、地道に続けております。

第51回 2021年

団体 木刈親子読書会(長尾さおりさん) 千葉県

*おめでとうございます。

木刈親子読書会は40周年に向けて、会員となをしようか、企画しているところです。親子で楽し

める講演会、全員でチバニアンをめぐるツアー、記念誌の発行など盛りあがっています。

団体 石垣市文庫連絡協議会(新城由利子さん) 沖縄県

*第51回野間読書推進賞贈呈式で出会い、縁を結ぶことができました。NPOブックスタートの安井真知子さまを講師に、11月26日(日)に「野間読書推進賞受賞記念児童文化講演」を開催いたします。11月12日、文庫連設立記念日に、待望の記念誌『文庫連のあゆみ石垣市文庫連絡協議会40年の活動記録1984〜2023』を発刊予定です。これからも出会う子どもたちに、絵本力の種まきが続けていきます。



昨年受賞の萌えぎの会(群馬県)のおふたりと赤羽茂乃さん(左)

第52回 2022年

団体 萌えぎの会(猿木尚子さん) 群馬県

*2024年、おかげさまで私たちは50周年を迎えます。感謝のなか、全会員27名で記念講演会などの準備を進めています。

おはなし会は通常の形に戻つつあり、子どもたちやご家族の笑顔に接する喜びをふたたび感じています。牛乳パックを再利用したくるくる絵本ワークショップも開催することができ、世界でひとつの個性豊かな絵本がたくさん完成

していることを嬉しく感じています。牛乳パックを再利用したくるくる絵本ワークショップも開催することができ、世界でひとつの個性豊かな絵本がたくさん完成

南種子町の明るく元気な子どもたち(左から藤原さんと北村さんきょうだい)。祝賀会、楽しんでくれたかな？



しました!! 高齢者のみなさまとの再会も、心待ちにしています。個人 渡邊満洲子さん(きらぎら文庫、語りの会、愛知県) *今後とも「発展を心から念じております。

奨励賞 法崎よし子さん 大分県 *コロナ禍の中でも、図書館のおはなし広場での乳幼児のよみきかせ会や、幼稚園児へのよみきかせ会は感染対策をしながら地道に実施してきました。最近ようやくマスクを取って表情の見える活動ができ、うれしいかぎりです。

「『子どもの読書週間』行事報告一覧」行事主催者追加・「若い人に贈る読書のすすめ」掲載図書一覧訂正

『読書推進運動』671号別冊「2023年第65回『子どもの読書週間』行事報告一覧」(2023年10月15日発行)に、石川県白山市と京都府京都市より追加の報告がありましたので、ここに追加いたします。

●「子どもの読書週間」行事報告追加

《石川県》

白山市立松任図書館 ●「子ども読書の日」フェスタ企画 ①子ども映画会「春の図書館映画会」『トムとジェリー』②「えほんのおたのしみブック」③「おはなし会で読まれた本展」昨年4〜12月に読まれた本の展示貸出 ●「子ども読書の日」フェスタ企画 ①しおり作りコーナー ②『日本絵本賞』の絵本展 過去10年の受賞作と最終候補作を展示貸出 ●「フェスタおはなし会」読み聞かせ、パネルシアター、手袋シアター、手遊び、ハンドベルなど ●白山市立鶴来図書館 ●「子ども読書の日」フェスタ企画 ①「本がもつと好きになる」図書館・書店が舞台の物語・小説、児童書書評などの展示貸出 共催 鶴来図書館本町分館 ②「フェスタおはなし会」(2日)対象 乳幼児、小学生

《京都府》

京都市北図書館 ●「おたのしみ会」(2日) ①「京のわらべうたでいっしょに遊ぶ」②絵本の読み聞かせ、手遊び ●「赤ちゃんおたのしみ会」絵本の読み聞かせ、手遊び

これにともない行事主催者数に
石川県 25↓28
京都府 41↓42
合計 18992↓18996
に変更されます。

また、『読書推進運動』第672号(2023年11月15日発行)の「2024 若い人に贈る読書のすすめ」掲載図書一覧の著者名に一部誤りがございました。

●「若い人に贈る読書のすすめ」掲載図書一覧訂正

【誤】
「雨にシユクラン」こやまあつこ
↑
【正】
「雨にシユクラン」こまつあやこ

こまつあやこさま、関係者さまをはじめ、みなさまにご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。訂正いたします。(編集部)

事務局報告(11月)

- ☆21日 第53回 野間読書推進賞 贈呈式・祝賀会(出版クラブビル)
- ・6日 第16回 高橋松之助記念「朝の読書大賞」文字・活字文化推進大賞 贈呈式出席(山出版クラブビル)
- ☆8日 機関紙「読書推進運動」672号 入稿
- ・8日 日本雑誌広告協会 第65回「日本雑誌広告賞」表彰会出席(東京ドームホテル)
- ☆10月27日 9日 『第77回 読書週間』☆9日 機関紙「読書推進運動」672号 責了
- ・9日 とうたかずひこさんより「子ども読書の日ポスター」原画受け取り
- ・9日 『上野の森親子ブックフェスタ2023』収支監査確定
- ☆15日 機関紙「読書推進運動」672号 出来
- ☆15日 『2024 若い人に贈る読書のすすめ』リーフレット入稿
- ・20日 伊藤忠記念財団子ども文庫助成事業 選考会に出席
- ☆21日 『2024 若い人に贈る読書のすすめ』リーフレット専
- ☆21日 『2024 子どもの読書週間、読書週間標語について』事業委員 二次投票しめきり
- ・28日 共同通信社編集局文化部と意見交換
- ・29日 『子ども読書の日ポスター』についてとよたかずひこさんと打ちあわせ
- ☆29日 『2024 子どもの読書週間、読書週間標語について』事業委員 二次投票しめきり

●編集部 & 事務局のひとこと

●4月に事務局長を拝命してはや年末、当協会の各事業に携わるうち、あつという間に時間が過ぎていく。野間読書推進賞の贈呈式を終えた11月中旬、すこしばかり休暇をいただいて台湾への旅をした。若いころから東く東南アジア各地のローカルフードにはまり、旅をしてきた。特に中華系のコミュニティで「小吃」(ジャオチ)とよばれる、お手軽な一品料理が好きで、今回の台湾でも「蝦仁飯」「擔仔麵」「牛肉麵」「小籠包」などを食べ歩いた。●観光地を次々に回るのは好きでなく、いわゆる滞在型の旅をする。日常とちがう環境で読書をするものなよりの楽しみで、かつては途中で読む本がなくなってしまう恐怖感から、かなりの冊数を持ち歩くこととなり、スニーカーのバックキングに苦勞した記憶がある。●いまは電子書籍がある。私のデバイスには、いつの間にか数えきれないくらいタイトルが取まっている。ちよつとした本棚をかついで旅をしているようだとニンマリするほどである。そしてこれに新しい本を購入できる。バリアフリーの観点から読書の「手段」についても考えさせられる1年だったと思うが、旅先ではデジタルの利便性を実感する。●紙でも電子でも手段は問わず、すべての人がすばらしい読書体験をする、そんな新しい年になってほしいと、台南でひさしぶりに村上春樹さんの『遠い大鼓』を読み返しながらかえていた。(佐々木)